

## 2.4.3 上川中部森林管理署

表-2.4.3 の 20 調査地について記載した。

表-2.4.3 上川中部森林管理署の調査地一覧

No	エリア	プロット	SPUE 2007	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
										小径 木	大径 木	下枝	稚樹	ササ
41	K1 美瑛	E01	6.5	3.4	緩斜面	広葉樹林(ダケカンバ)	クマイザサ、稚樹なし	2	2	0%	0%	0%	0%	0%
42		E02	2.1	3.3	斜面中部	針広混交林(トドマツ優占)	チシマザサ、シダ類	1	2	3%	0%	8%	0%	0%
43		E03	4.8	3.4	緩斜面	針広混交林	チシマザサ	1	2	0%	0%	0%	100%	63%
44	K2 大雪 西	E04	5.3	4.9	堆積地	河畔林	クマイザサ、稚樹なし	1	2	0%	0%	0%	100%	33%
45		E05	5.3	7.3	堆積地	広葉樹林	ゴンゲンスゲ、チシマザサ	1	2	2%	0%	77%	89%	75%
46	K3 旭 川	E06	1.5	2.8	斜面中部	広葉樹林	クマイザサ	1	2	2%	0%	0%	48%	79%
47		E07	6.2	3.0	堆積地	河畔林	スゲ類、クマイザサ	2	2	0%	0%	75%	100%	80%
48		N01	1.8	2.8	緩斜面	広葉樹林(ハルニレ)	クマイザサ・シダ類	1	2	8%	0%	68%	100%	65%
49	K4 愛 別	N02	2.1	3.2	緩斜面	広葉樹林(ミズナラ)	クマイザサ	2	2	0%	0%	71%	100%	50%
50		N03	1.1	3.3	斜面中部	針広混交林	クマイザサ	1	1	0%	0%	93%	100%	95%
51		N04	2.5	3.4	緩斜面	広葉樹林(ヤチダモ)	クマイザサ	2	2	0%	0%	9%	86%	90%
52	K5 上 川	W01	2.2	1.8	堆積地	河畔林	クマイザサ	1	2	0%	0%	78%	96%	92%
53		W02	1.9	2.8	緩斜面	針広混交林	クマイザサ	1	2	10%	27%	79%	98%	60%
54		W03	2.5	3.2	斜面中部	針広混交林	クマイザサ	1	1	11%	0%	6%	64%	95%
55	K6 大雪 東	W05	2.8	2.7	斜面中部	針広混交林	クマイザサ	1	2	0%	0%	42%	71%	13%
56		W06	1.8	3.0	緩斜面	針広混交林	クマイザサ	2	4	11%	0%	25%	15%	0%
57		W07	4	2.7	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	クマイザサ、稚樹多い	1	1	27%	0%	99%	97%	69%
58	K6 大雪 東	W08	2.3	3.3	斜面中部	広葉樹林	クマイザサ、ハイヌガヤ	1	1	10%	0%	45%	0%	85%
59		W09	3.2	3.1	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	クマイザサ	1	2	0%	0%	2%	3%	5%
60		W10	1.6	2.9	緩斜面	広葉樹林(ダケカンバ)	ハイヌガヤ、チシマザサ	1	1	5%	0%	53%	88%	50%

上川 E01 の結果概要 地区名：上川 2017 林班ろ小班 10月1日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ダケカンバ)	緩斜面	北東	2	2	2007年 6.5	累積 3.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	28 /200 m <sup>2</sup>	28.5 m <sup>2</sup> /ha	9 /200 m <sup>2</sup> 食痕:0/17 0%		3/200 m <sup>2</sup>	1/27 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]
	3 /200 m <sup>2</sup>	3/3 100%				3	82%・164.3・0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ウダイカンバ	15	4,613		
キハダ	12	1,929	3	
シナノキ	7	1,370	5	1
ダケカンバ	10	1,249	4	
トドマツ	4	1,245	2	
全体	56	11,401	19	1

※総BAは胸高直径断面の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
オヒョウ	3		3

全体	3	3
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	1.342	82.0	164.3	
ムカゴイラクサ	1	0.000	0.1	35.0	
ミヤマタタビ	1	0.000	0.1	18.0	
全体		1.343	82.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E01 は、上川地区北部の林道沿いの広葉樹二次林に設定している。本来的には針広混交林だったためトドマツもわずかに混じるが、ウダイカンバやダケカンバなどの広葉樹が多く見られる。林縁には若干シカの食痕が見られるものの、林内の痕跡はあまり多くない。可食種のうち下枝がある立木は 17 本あるが、食痕が確認できたものはない。樹皮剥ぎはシナノキ 1 本に見られたのみである。

稚樹はわずかにオヒョウ 3 本が生育していたのみだが、全てで食痕が見られた。稚樹の少なさはシカによる影響ではなく、ササの被圧によるところが大きい。林床のササはクマイザサで、全体被度は 82%に達し、その他の植物はきわめてわずかとなっている。可食種、忌避種とも現存量は 0.01 未満と小さい。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 E02 の結果概要 地区名：中越 2067 林班ろ小班 9月28日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU/E 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ優占)	斜面中部	南西	1	2	2007年 2.1	累積 3.2	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	71 /200 m <sup>2</sup>	39.7 m <sup>2</sup> /ha	28 /200 m <sup>2</sup> 食痕:17/28 61%		27 /200 m <sup>2</sup>	10/40 25%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m <sup>2</sup>	10/18 56%		39	24%・92.9・13%	0.40・0.11(4.3)・0.02	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	27	3,604	22	
エゾマツ	2	1,275	1	
オヒョウ	2	1,053		
ナナカマド	6	563	3	
ハウチワカエデ	2	382		
全体	71	7,937	51	10

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ナナカマド	7	1	2
シナノキ	6		5
カツラ	2		2
ハウチワカエデ	2		2
オオバボダイジュ	1		
全体	18	1	11

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
チシマザサ	16	0.273	23.6	92.9	○
オシダ	9	0.044	8.1	43.0	
シラネワラビ	5	0.031	6.3	43.8	
ジュウモンジシダ	9	0.020	5.8	26.3	
コマユミ	1	0.008	0.5	158.0	○
全体		0.404	45.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E02 は、中越地区の林道沿いの針広混交林に設定している。トドマツが優占し、エゾマツや広葉樹のオヒョウ、ナナカマドが混生する。林内にはシカの足跡が確認され、食痕もやや多い。広葉樹で下枝がある立木は 28 本で、その 61%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは全立木の 25%に見られるが、新しい食痕はない。

稚樹はナナカマドなど 18 本が生育しているが、そのうちの 10 本に食痕が見られた。林床はチシマザサが優占するが、全体的な被度はそれほど高くなく、オシダやシラネワラビなどのシダ植物が目立つ。ササには食痕が見られる。可食種の現存量は 0.02 と小さく、忌避種がその 4 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響は中程度である。

上川 E03 の結果概要 地区名：茅刈別 2118 林班に小班 9月28日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	西	1	2	2007年 4.8	累積 3.0	糞・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	40 /200 m <sup>2</sup>	51.9 m <sup>2</sup> /ha	22 /200 m <sup>2</sup> 食痕: 9/22 41%		12/200 m <sup>2</sup>	0/27 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m <sup>2</sup>	6/18 33%		42	26%・114.5・0%	0.73・0.14(0.5)・0.28	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総 BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
シナノキ	11	4,881	8	
トドマツ	3	2,240		
ウダイカンバ	1	1,290		
ナナカマド	3	816	1	
ダケカンバ	2	596		
全体	40	10,375	28	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	7	1	7
シナノキ	5		1
ベニイタヤ	4	2	1
エゾマツ	2		
オヒョウ	2	2	
全体	22	6	10

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
チシマザサ	17	0.314	25.5	114.5	
ハウチワカエデ	5	0.214	11.3	156.0	○
シラネワラビ	17	0.122	21.1	49.7	
オオカメノキ	9	0.019	3.4	45.6	○
コヨウラクツツジ	5	0.010	1.4	56.4	○
全体		0.733	61.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E03 は、茅刈別地区南部の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹で多いのはトドマツで、広葉樹ではシナノキが多く見られる。林内にはシカ道があり、食痕もやや目立つ。下枝がある立木はシナノキを中心に 22 本あるが、その 41%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは見られなかった。

可食種の稚樹はハウチワカエデなど 18 本が生育しているが、そのうち 6 本に食痕が見られる。林床はチシマザサが優占するが、パッチ状で空隙が多い。低木類やシラネワラビなども比較的多く生育する。低木類の多くにシカの食痕が見られる。可食種の現存量は 0.28 と大きく、忌避種はその約半分ほどである。全体にエゾシカの影響は中程度である。

上川 E04 の結果概要 地区名：清川 180 林班に小班 9月29日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林	堆積地	なし	1	2	2007年 5.3	累積 4.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m <sup>2</sup>	59.8 m <sup>2</sup> /ha	20 /200 m <sup>2</sup> 食痕:1/20 5%		5/200 m <sup>2</sup>	7/40 18%(8%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m <sup>2</sup>	0/0		19	99%・158.8・30%	1.61・0.02(0.7)・0.03	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の( )内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ヤチダモ	17	4,947	2	
ハルニレ	5	4,151	3	3
ハシドイ	18	2,234	17	6
トドマツ	5	628	1	
全体	45	11,959	23	9

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
トドマツ	2	1	

全体	2	1
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	1.564	98.5	158.8	○
ハシドイ	2	0.018	1.6	118.5	
トクサ	9	0.007	1.3	47.8	
トドマツ	1	0.003	0.3	134.0	
ヨブスマソウ	2	0.003	0.3	67.5	
全体		1.609	98.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E04 は、清川地区南部の林道沿いの河畔林に設定している。広葉樹のヤチダモ、ハルニレが優占する。林内にシカ道はないが、樹皮剥ぎはプロット周辺を含めて目立ち、高利用域になっていると推測される。可食種のうち下枝がある立木はハシドイを中心に 20 本あり、そのうちの 1 本に食痕があるのみである。樹皮剥ぎはハルニレやハシドイに見られ、新規食痕も 8%ある。

稚樹はトドマツのみで、広葉樹は全く確認されていない。これは、主にササによる被陰のせいで、シカによるものではないと考えられる。林床はクマイザサが優占し、平均被度は 98%に達し、平均高も 160cm 近い。ササ以外の植物はきわめてわずかとなっている。ササには、若干の食痕が認められる。可食種、忌避種とも現存量は小さい。エゾシカの影響は林冠木であるハルニレなどに強く見られる。

上川 E05 の結果概要 地区名：層雲峡 220 林班よ小班 9月29日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	堆積地	南	1	2	2007年 5.3	累積 6.3	冬糞・越冬地
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	66 /200 m <sup>2</sup>	67.5 m <sup>2</sup> /ha	37 /200 m <sup>2</sup> 食痕:16/37 43%		12/200 m <sup>2</sup>	13/62 21%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m <sup>2</sup>	1/1 100%		57	4%・40.2・17%	0.12・0.09(6.3)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の ()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ケヤマハンノキ	6	2,727	4	3
ミヤマザクラ	9	2,545	6	
ミズナラ	12	1,662	9	2
イタヤカエデ	21	1,239	11	6
ドロノキ	1	1,140		
全体	66	13,509	39	16

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
エゾマツ	1		
トドマツ	1		
ミヤマザクラ	1		1
全体	3		1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
エゾトリカブト	9	0.042	4.3	65.7	
チシマザサ	6	0.017	3.8	40.2	○
エゾイラクサ	7	0.015	2.0	61.1	○
コバノイラクサ	9	0.011	3.0	26.2	○
ゴンゲンスゲ	9	0.008	5.4	13.7	
全体		0.117	31.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E05 は、層雲峡地区の層雲峡野営場付近の広葉樹二次林に設定している。広葉樹のケヤマハンノキ、イタヤカエデなどが多く見られる。林内はシカ道が多く、食痕も目立ち、シカの越冬地として利用されている。可食種のうち下枝がある立木はイタヤカエデなど 37 本と比較的多く、その 43%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはイタヤカエデなど 13 本あるが、新しい食痕はわずかだった。

稚樹はわずかに 1 本のみで、そのうちの 1 本に食痕が見られた。累積的な被食圧の影響を強く受けていて、今後の更新への影響が懸念される。林床はもともとチシマザサが優占していたと考えられるが、現在はササが完全に衰退し、エゾトリカブトやエゾイラクサなどの忌避種がまばらに生える。忌避種であるイラクサ類にも食痕が見られ、全体にエゾシカの影響が強くと見られるが、最近の利用度は減少している可能性もある。

上川 E06 の結果概要 地区名：銀泉台 2320 林班心小班 9月29日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南東	1	2	2007年 1.5	累積 3.2	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	69 /200 m <sup>2</sup>	70.9 m <sup>2</sup> /ha	31 /200 m <sup>2</sup> 食痕:8/31 26%		12/200 m <sup>2</sup>	2/61 3%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m <sup>2</sup>	0/0			10	89%・108.8・5%	1.15・0.06(0.6)・0.10	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
オヒョウ	35	3,944	28	1
オノエヤナギ	17	3,276	1	
ドロノキ	5	2,850		
シラカバ	3	2,587		
ダケカンバ	1	711		
全体	69	14,179	35	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)



全体

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.986	89.0	108.8	○
アキタブキ	10	0.095	9.6	92.2	
エゾイラクサ	20	0.057	5.3	84.3	
チシマアザミ	3	0.007	1.0	54.0	
ヨブスマソウ	6	0.003	0.5	97.8	○
全体		1.151	92.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E06 は、銀泉台地区の林道沿いの広葉樹二次林である。湿った環境を反映してオヒョウの小～中径木が多く見られる。林内にはシカの足跡が見られ、食痕もみられる。可食種のうち下枝がある立木は 31 本と比較的多く、その 26%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは主にオヒョウに見られる。

稚樹はまったく確認されなかった。これはササの被圧とシカによる被食の影響のためと考えられる。林床はクマイザサが密生し、ところどころにアキタブキやエゾイラクサなどの高茎草本が生育している。ササにはわずかに食痕が見られる。可食種の現存量は 0.10 で、忌避種の現存量はそれより少なかった。全体にエゾシカの影響は中程度であるが、今後の変化が注目される。

上川E07の結果概要 地区名：沼の原 2309 林班よ小班 9月30日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林		堆積地	なし	2	2	2007年 6.2	累積 3.5	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	42 /200 m <sup>2</sup>	58.2 m <sup>2</sup> /ha	5 /200 m <sup>2</sup> 食痕: 4/10 40%		1 /200 m <sup>2</sup>	7/52 13%(2%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m <sup>2</sup>	0/0					28	14%・95.5・0%

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
オヒョウ	51	12,668	7	12
トドマツ	5	3,279	4	1
ダケカンバ	17	3,274	3	
オノエヤナギ	1	2,146		
エゾマツ	8	1,567	7	1
全体	83	23,261	22	14

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
トドマツ	1		



全体

1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	4	0.131	13.5	95.5	
スゲsp	19	0.102	45.9	21.4	○
エゾイラクサ	19	0.054	8.0	63.7	
エゾヒョウタンボク	4	0.023	1.6	91.8	
クルマバソウ	18	0.011	5.6	16.4	
全体		0.336	71.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 E07 は、沼の原地区の林道沿いの河畔林に設定している。林相としては針広混交林ないし広葉樹林となっている。針葉樹ではトドマツとエゾマツが出現し、広葉樹ではオヒョウが多く見られる。林内にはシカ道が多く、食痕も目立っている。可食種のうち下枝がある立木は 10 本あり、その 40%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはオヒョウに多く見られるが、新しいものは少ない。

稚樹はトドマツが 1 本みられたのみである。エゾシカの累積的な被食圧の影響と思われる、今後の更新への影響が懸念される。林床はクマイザサがパッチ状に優占する場所もあるが、ヨブスマソウなどの高茎草本が群生する場所ではササを欠いている。可食種の現存量は 0.03 と小さく、忌避種がその 5 倍以上を占める。プロット付近では忌避種であるヨブスマソウにも食痕が多く見られ、全体にエゾシカの影響が強く見られる。



上川NO1の結果概要 地区名：愛別 1 21 林班け小班 9月29日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ハルニレ)	緩斜面	南東	1	2	2007年 1.8	累積 2.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	34 /200 m <sup>2</sup>	26.7 m <sup>2</sup> /ha	25 /200 m <sup>2</sup> 食痕:1/25 4%		11 /200 m <sup>2</sup>	4/34 12%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	15 /200 m <sup>2</sup>	15/15 100%			36	40%・125.8・13%	0.75・0.18(5.7)・0.03

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ハルニレ	11	2,748	7	
オニグルミ	1	1,069		
オヒョウ	6	676	3	2
ケヤマハンノキ	1	436		
カツラ	1	206	1	
全体	34	5,344	25	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	11		11
ハシドイ	4		4

全体	15	15
----	----	----

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	15	0.538	39.8	125.8	○
ジュウモンジシダ	14	0.086	18.1	38.3	
オシダ	3	0.053	7.0	75.7	
ミヤマイボタ	4	0.019	3.0	62.8	
リョウメンシダ	3	0.015	2.8	48.3	
全体		0.750	73.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 N01 は、愛別地区北部の林道沿いの広葉樹林である。湿った立地条件を反映して、ハルニレやオヒョウが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木は 25 本あり、そのうち食痕が見られたのは 1 本だけだった。樹皮剥ぎはオヒョウなどに見られた。

稚樹はイタヤカエデとハシドイのみで、全てで食痕が見られた。林床にはクマイザサが優占するが、密生はしておらずパッチ状である。ジュウモンジシダやオシダなどのシダ植物が目立つ。ササには食痕が見られる。可食種の現存量は 0.03 と小さく、忌避種がその 5 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響は中程度となっている。

上川NO2の結果概要 地区名: 愛別2 27林班の小班 9月29日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		緩斜面	南	2	2	2007年 2.1	累積 3.3	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	17 /200 m <sup>2</sup>	20.6 m <sup>2</sup> /ha	7 /200 m <sup>2</sup> 食痕: 0/14 0%			3/200 m <sup>2</sup>	1/26 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200 m <sup>2</sup>	0/5 0%			7	87%・167.2・0%	1.45・0.00(0.0)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	16	6,289	8	
シナノキ	2	572	1	
シラカバ	1	462		
ヤチダモ	2	462		
ハリギリ	1	311		
全体	34	8,235	21	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハルニレ	2		
ミズナラ	2		
アズキナシ	1		1
トドマツ	1		
全体	6		1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	1.446	86.5	167.2	
ヤマブドウ	1	0.002	0.5	33.0	
ミヤママタタビ	2	0.002	0.5	32.5	
ヨツバヒヨドリ	2	0.002	0.1	155.0	
ツルニンジン	1	0.001	0.1	150.0	
全体		1.453	87.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 N02 は、愛別地区北部の林道沿いの広葉樹二次林に設定している。ミズナラが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木はミズナラを中心に 14 本あったが、食痕が見られたものはなかった。樹皮剥ぎも、26 本中 1 本のみだった。

稚樹は少なく、ハルニレなど 6 本のみで、食痕が見られたのはこのうち 1 本のみだった。林床はクマイザサが繁茂し、それ以外の植物はわずかである。ササには食痕が見られなかった。可食種、忌避種とも現存量は小さい。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 N03 の結果概要 地区名：愛別 3 49 林班は小班 9月30日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	北西	1	1	2007年 1.1	累積 3.7	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	53 /200 m <sup>2</sup>	33.5 m <sup>2</sup> /ha	25 /200 m <sup>2</sup> 食痕:1/25 4%		27 /200 m <sup>2</sup>	19/38 50%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	64 /200 m <sup>2</sup>	5/32 16%				31	36%・128.5・50%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ウダイカンバ	4	3,704		
ダケカンバ	2	1,916		
ベニイタヤ	23	429	14	12
トドマツ	9	202	9	
ハリギリ	3	166	1	2
全体	53	6,697	34	19

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
シナノキ	21	4	2
トドマツ	6		
オオバボダイジュ	5	4	3
ベニイタヤ	4	1	
アズキナシ	1		1
全体	38	9	6

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.473	35.5	128.5	○
シナノキ	5	0.016	1.5	40.6	○
オオバボダイジュ	2	0.008	1.0	79.0	○
アマチャヅル	5	0.003	1.1	31.4	
イワガラミ	12	0.003	1.5	17.8	
全体		0.512	40.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 N03 は、愛別地区北部の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹としてはトドマツが見られるが少なく、ウダイカンバやダケカンバの優占度が高い。林内にはシカ道があり、食痕もみられる。下枝がある立木はシナノキなど 25 本あるが、食痕が見られるのは 1 本 (4%) だけである。ただ、樹皮剥ぎは 38 本中 19 本に見られる。

稚樹はシナノキが 21 本と多く生育している。可食種の稚樹は全部で 32 本あり、このうち食痕が見られるのは 5 本である。林床にはクマイザサが優占するが、パッチ状で密生していない。ササには食痕が見られる。可食種、忌避種とも現存量は小さい。全体にエゾシカの影響は軽微または中程度である。

上川NO4の結果概要 地区名：愛別4 55林班う小班 9月30日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ヤチダモ)	緩斜面	北東	2	2	2007年 2.5	累積 3.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	20 /200 m <sup>2</sup>	28.1 m <sup>2</sup> /ha	11 /200 m <sup>2</sup> 食痕:0/22 0%		3/200 m <sup>2</sup>	0/40 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m <sup>2</sup>	0/0				4	79%・170.9・0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の( )内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ペニイタヤ	2	2,933		
ホオノキ	8	2,225	5	
シナノキ	9	1,992	5	
イタヤカエデ	8	1,902	5	
ヤチダモ	7	1,120	3	
全体	40	11,239	22	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)



全体

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	1.354	79.0	170.9	
ツタウルシ	5	0.001	0.5	24.0	
イワガラミ	2	0.000	0.1	13.5	
ヤチダモ	1	0.000	0.0	8.0	
全体		1.356	79.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 N04 は、愛別地区北部の林道沿いの広葉樹二次林に設定している。やや湿性の立地で、ヤチダモ林ないしイタヤ・シナノキ林タイプの林分である。下枝がある立木は 11 本あったが、食痕はまったく見られなかった。同様に、樹皮剥ぎもまったく見られなかった。

稚樹はまったく見られなかった。ササの被圧によるものと考えられる。林床にはクマイザサが密生していて、ササに食痕は見られなかった。可食種、忌避種とも現存量は小さかった。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川W01の結果概要 地区名：美瑛 1021 林班り小班 9月24日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU/E 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林	堆積地	なし	1	2	2007年 2.2	累積 1.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	60 /200 m <sup>2</sup>	34.0 m <sup>2</sup> /ha	24 /200 m <sup>2</sup> 食痕:3/24 13%		14/200 m <sup>2</sup>	0/60 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]
	8 /200 m <sup>2</sup>	1/8 13%				30	80%・145.0・15%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の( )内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ハルニレ	15	3,464	9	
ハリギリ	5	713		
オノエヤナギ	3	591	1	
オニグルミ	1	504		
バッコヤナギ	6	492		
全体	60	6,809	24	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	4	4	4
トドマツ	2	2	
ヤマグワ	2	2	1
キタコブシ	1	1	
シナノキ	1	1	1
全体	10	10	6

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	1.183	79.8	145.0	○
フッキソウ	14	0.029	9.1	28.4	
ジュウモンジシダ	9	0.009	2.4	33.8	
コンロンソウ	9	0.004	0.8	39.8	
ミヤマベニシダ	8	0.004	1.5	21.1	
全体		1.240	85.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W01 は、美瑛地区南部の林道沿いの河畔林に設定している。ハルニレが本数、材積 (BA) ともに優占する。下枝がある立木はハルニレを中心に 24 本あり、その 13%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは全く見られなかった。

稚樹はベニイタヤなど 8 本が生育しているが、このうちの 1 本に食痕が見られた。林床にはクマイザサが優占し、一部に食痕が見られる。可食種の現存量は 0.01 と小さく、忌避種がその 4 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 W02 の結果概要 地区名：神居ダム 216 林班か小班 9月25日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	南東	1	2	2007年 1.9	累積 3.5	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	137 /200 m <sup>2</sup>	34.3 m <sup>2</sup> /ha	72 /200 m <sup>2</sup> 食痕:1/72 1%		88/200 m <sup>2</sup>	1/117 1%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	50 /200 m <sup>2</sup>	0/50 0%			29	19%・108.3・17%	0.72・0.03(0.1)・0.48	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ウダイカンバ	13	1,820		
トドマツ	6	1,716	4	
ミズナラ	19	1,072	14	
ハウチワカエデ	42	585	28	
ベニイタヤ	29	552	9	
全体	137	6,865	76	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハウチワカエデ	22	8	
ベニイタヤ	8	1	1
キタコブシ	5	2	
アカエゾマツ	4		
ナナカマド	4	3	
全体	58	16	1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	6	0.225	18.5	108.3	○
シナノキ	4	0.131	8.8	143.5	
ハウチワカエデ	11	0.103	7.7	86.8	
オオカメノキ	13	0.065	8.3	64.5	○
アカミノイヌツゲ	4	0.045	5.8	49.3	
全体		0.725	66.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W02 は、神居ダム地区の林道沿いの二次的な針広混交林に設定している。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではウダイカンバ、ミズナラ、ハウチワカエデなどが見られる。林内にはシカ道があるが、食痕は少ない。下枝がある立木はハウチワカエデを中心に 72 本と多いが、食痕が見られるのは 1 本 (1%) に過ぎない。樹皮剥ぎも 1 本のみである。

稚樹のうち可食種はハウチワカエデを中心に 50 本が生育しているが、食痕が見られたものはなかった。林床にはクマイザサが優占するが、パッチ状で、低木類も多く見られる。ササにはシカの食痕が見られる。可食種の現存量は 0.58 と大きく、忌避種は 0.06 と少ない。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 W03 の結果概要 地区名：西神楽 227 林班お小班 9月11日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面中部	西	1	1	2007年 2.5	累積 3.6	糞・シカ道・姿
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	64 /200 m <sup>2</sup>	53.0 m <sup>2</sup> /ha	32 /200 m <sup>2</sup> 食痕:5/32 16%		24/200 m <sup>2</sup>	8/54 15%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	100 /200 m <sup>2</sup>	23/50 46%			29	46%・101.7・10%	0.56・0.05(1.9)・0.03	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	10	4,809		
オオバボダイジュ	34	4,319	16	6
バッコヤナギ	1	637	1	
ハリギリ	1	469		
ベニイタヤ	12	193	11	1
全体	64	10,600	32	8

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
オオバボダイジュ	29		22
キタコブシ	5		
イタヤカエデ	4		
ベニイタヤ	4		
オヒョウ	3	2	3
全体	50	3	29

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	20	0.482	46.0	101.7	○
オシダ	5	0.016	2.8	47.2	
ツタウルシ	14	0.011	3.9	23.8	
フッキソウ	13	0.011	4.9	20.8	
スゲsp.(B)	11	0.010	3.9	20.2	
全体		0.562	60.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W03 は、西神楽地区の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではオオバボダイジュ、ベニイタヤなどが見られる。林内にはシカ道があり、食痕もやや目立つ。下枝がある立木はオオバボダイジュやベニイタヤを中心に 32 本と比較的多く、その 16%に食痕が見られる。樹皮剥ぎもオオバボダイジュで多く見られるが、新しい食痕はない。

稚樹はオオバボダイジュを中心に 50 本が生育しているが、このうちの 46%で食痕が見られる。林床にはクマイザサが優占するが、密生まではしておらず、一部に食痕が見られる。可食種の現存量は 0.03 と小さく、忌避種も 0.05 と同程度である。全体にエゾシカの影響は中程度である。

上川 W05 の結果概要 地区名：朗根内 1031 林班は小班 9月25日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面中部	北東	1	2	2007年 2.8	累積 2.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	73 /200 m <sup>2</sup>	44.0 m <sup>2</sup> /ha	46 /200 m <sup>2</sup> 食痕:1/46 2%		39/200 m <sup>2</sup>	2/56 4%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	9 /200 m <sup>2</sup>	0/9 0%			44	70%・104.0・0%	1.00・0.05(0.3)・0.17	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
シナノキ	9	3,081	4	
ウダイカンバ	6	1,801		
ケヤマハンノキ	6	1,291	4	
ミズナラ	2	992		
ナナカマド	2	624	1	
全体	73	8,797	48	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
オガラバナ	8	2	1
エゾマツ	5	1	
トドマツ	2		
アカエゾマツ	1		
オヒョウ	1	1	1
全体	17	4	2

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.764	69.8	104.0	
ノリウツギ	5	0.055	3.4	118.0	
オオカメノキ	9	0.051	5.9	91.8	○
エゾイラクサ	6	0.025	3.0	77.2	
エゾアジサイ	5	0.021	3.8	53.0	
全体		1.000	84.2		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W05 は、朗根内地区の林道沿いの針広混交林に設定している。針葉樹ではエゾマツとトドマツ、広葉樹ではシナノキ、ウダイカンバなどが見られる。下枝がある立木は 46 本と比較的多いが、食痕が見られるのはわずかに 1 本のみである。樹皮剥ぎも 4%と少ない。

稚樹はオガラバナなど 9 本が生育しているが、食痕が見られなかった。林床にはクマイザサが優占し、それ以外では低木類が見られた。ササに食痕は見られなかった。可食種の現存量は 0.17、忌避種は 0.05 だった。全体にエゾシカの影響は軽微だった。



上川 W06 の結果概要 地区名：忠別ダム 355 林班の小班 9月25日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	北	2	4	2007年 1.8	累積 3.0	糞・足跡・シカ道・姿
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	24 /200 m <sup>2</sup>	56.6 m <sup>2</sup> /ha	9 /200 m <sup>2</sup> 食痕: 1/17 6%		4/200 m <sup>2</sup>	1/39 3%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]		
	3 /200 m <sup>2</sup>	1/6 17%		18	73%・126.6・0%	1.07・0.03(0.3)・0.11		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ヤチダモ	6	6,849	3	
ベニイタヤ	2	4,089		
オヒョウ	2	2,741		1
シウリザクラ	9	2,449	2	
エゾマツ	6	1,972	2	
全体	47	22,630	19	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
オガラバナ	4		1
オヒョウ	2		
トドマツ	2		
ベニイタヤ	1		
ミズナラ	1	1	
全体	10	1	1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.930	72.8	126.6	
オオカメノキ	12	0.102	9.5	93.8	○
シラネワラビ	4	0.013	1.8	53.0	
ジュウモンジシダ	6	0.008	2.5	29.5	
オシダ	1	0.007	1.0	67.0	
全体		1.070	81.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W06 は、忠別ダム地区の林道沿いの針広混交林に設定している。付近は標準林に指定されており、林分は周辺域に比べて発達しているが、本数密度はそれほど高くない。針葉樹ではエゾマツとトドマツ、広葉樹ではヤチダモやシウリザクラなどが見られる。林内にはシカ道があり、シカの食痕もみられる。下枝がある立木は 17 本あるが、食痕が見られたのはそのうちの 1 本のみである。樹皮剥ぎも、39 本中 1 本のみである。

稚樹は 6 本のうち 1 本で食痕が見られた。林床にはクマイザサが密生していた。可食種の現存量は 0.11、忌避種はそれより少ない 0.03 だった。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 W07 の結果概要 地区名：石狩川 267 林班は小班 9月11日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	西	1	1	2007年 4.0	累積 2.9	足跡・声
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	103 /200 m <sup>2</sup>	38.2 m <sup>2</sup> /ha	51 /200 m <sup>2</sup> 食痕:23/51 45%		57 /200 m <sup>2</sup>	2/97 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	86 /200 m <sup>2</sup>	27/43 63%		20	56%・91.9・40%	0.60・0.01(0.1)・0.06	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	20	4,928	5	
オオバボダイジュ	9	620	5	
ダケカンバ	3	545		
ヤマナラシ	1	472		
アズキナシ	14	403	5	
全体	103	7,634	54	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
オオバボダイジュ	14	3	7
ハウチワカエデ	13	1	11
イタヤカエデ	7	5	4
アズキナシ	4	4	4
シナノキ	3	3	3
全体	43	16	31

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	20	0.526	56.0	91.9	○
シナノキ	6	0.012	1.1	38.2	○
アズキナシ	4	0.012	1.1	69.5	○
ツノハシバミ	1	0.009	0.5	170.0	
オオバボダイジュ	4	0.007	0.6	60.5	○
全体		0.599	63.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W07 は、石狩川地区にある教育林内の広葉樹二次林に設定した。ミズナラが優占している。林内にはシカの足跡や食痕がみられる。下枝がある立木はアオダモを中心に 51 本と多く、その 45%に食痕が見られる。一方、樹皮剥ぎは少なく、立木全体の 2%にすぎない。

稚樹はオオバボダイジュ、ハウチワカエデなど 43 本と多く、そのうちの 63%に食痕が見られる。林床はクマイザサが優占し、高木稚樹や低木類がわずかに混生する。ササには食痕が見られる。可食種の現存量は 0.06、忌避種はそれより少ない 0.01 である。全体にエゾシカの影響は中程度といえる。

上川 W08 の結果概要 地区名：神居古潭 289 林班に小班 9月9日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中部	北	1	1	2007年 2.3	累積 2.8	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	61 /200 m <sup>2</sup>	56.9 m <sup>2</sup> /ha	37 /200 m <sup>2</sup> 食痕:14/37 38%		28 /200 m <sup>2</sup>	1/61 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	122 /200 m <sup>2</sup>	29/61 48%		56	20%・85.6・35%	0.52・0.22(1.8)・0.12	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
シナノキ	12	2,160	8	
ミズナラ	6	2,082	4	
オヒョウ	5	1,930		
オオバボダイジュ	2	1,500	1	
ベニイタヤ	3	1,186	2	
全体	61	11,385	37	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	17	16	11
シナノキ	11	4	10
ハウチワカエデ	11	9	5
ミズナラ	9	5	6
オオバボダイジュ	6	3	3
全体	74	47	48

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	17	0.183	19.6	85.6	○
ハイヌガヤ	15	0.083	8.9	81.4	
ミヤマベニシダ	11	0.051	8.2	40.3	○
オオカメノキ	13	0.047	6.2	75.9	○
ジュウモンジシダ	15	0.033	8.6	31.1	○
全体		0.521	71.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W08 は、神居古潭地区の広葉樹二次林内に設定している。シナノキやミズナラなどが多く見られる。林内にはシカの糞や食痕がみられる。下枝がある立木はシナノキやミズナラを中心に 37 本と比較的多く、その 38%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは少なく、立木の 2%に過ぎない。

30cm 以上の稚樹はベニイタヤやシナノキなど 61 本が生育し、その 48%に食痕が見られる。林床にはクマイザサが優占するが、低木類やシダなども多く生育する。ササには食痕が見られる。可食種の現存量は 0.12、忌避種は 0.22 となっている。忌避種であるシダ類にも食痕が見られ、全体にエゾシカの影響がやや強く見られる。

上川 W09 の結果概要 地区名：嵐山 139 林班い小班 9月10日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	西	1	2	2007年 3.2	累積 3.1	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	54 /200 m <sup>2</sup>	59.8 m <sup>2</sup> /ha	28 /200 m <sup>2</sup> 食痕:2/28 7%		25/200 m <sup>2</sup>	2/54 4%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m <sup>2</sup>	0/18 0%			20	58%・108.1・20%	0.68・0.02(0.5)・0.04	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	13	10,114		
アズキナシ	13	708	9	
イタヤカエデ	2	385	2	
ベニイタヤ	16	283	12	
イヌエンジュ	2	199		
全体	54	11,958	28	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	12	6	
アズキナシ	3	1	
ハリギリ	3	1	
オオバボダイジュ	2		1
イヌエンジュ	1		
全体	21	8	1

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.623	58.0	108.1	○
アキカラマツ	8	0.017	2.1	51.4	
ヤマウルシ	5	0.017	1.1	59.4	
ヤマブドウ	5	0.011	2.1	48.0	
アズキナシ	1	0.009	0.5	170.0	
全体		0.684	61.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W09 は、嵐山地区南部の林道沿いの広葉樹林に設定している。林冠木にはミズナラが多く見られ、亜高木層や低木層にはアズキナシやベニイタヤがみられる。下枝がある立木はアズキナシやベニイタヤを中心に 28 本あり、その 7%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは全立木の 4%となっている。

稚樹はベニイタヤなど 18 本あるが、食痕が見られたものはなかった。林床にはクマイザサが優占し、シカの食痕が見られる。可食種の現存量は 0.04、忌避種はそれより少ない 0.02 となっている。忌避種であるフッキソウやツタウルシにも食痕が見られ、全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川W10の結果概要 地区名：旭川北 113林班ち小班 9月10日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ダケカンバ)		緩斜面	西	1	1	2007年 1.6	累積 2.8	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	102 /200 m <sup>2</sup>	46.2 m <sup>2</sup> /ha	32 /200 m <sup>2</sup> 食痕:0/32 0%		31 /200 m <sup>2</sup>	3/63 5%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> [全体・忌避種・可食種]	
	64 /200 m <sup>2</sup>	6/32 19%			17	1%・71.8・20%	0.38・0.26(2.5)・0.11	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の( )内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm <sup>2</sup> )	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ダケカンバ	33	3,691		
トドマツ	6	1,867		
ナナカマド	15	1,497	1	
ベニイタヤ	18	696	12	
エゾヤマザクラ	4	692	2	
全体	102	9,237	32	3

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハウチワカエデ	14		2
ベニイタヤ	13	3	3
シウリザクラ	3	1	1
ナナカマド	2	2	2
全体	32	6	8

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ハイヌガヤ	20	0.217	27.3	72.9	
オオカメノキ	13	0.053	8.6	51.0	○
ツノハシバミ	2	0.023	1.3	175.0	
ツルシキミ	14	0.019	5.8	29.6	
エゾユズリハ	5	0.013	2.2	49.2	
全体		0.379	49.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 W10 は、旭川北地区の林道沿いの広葉樹林に設定している。林冠にはダケカンバが優占し、亜高木層や低木層にはベニイタヤなどがみられる。林内にはシカの糞がみられ、多少の食痕もみられる。下枝がある立木はベニイタヤを中心に 32 本と比較的多いが、食痕が見られたものはなかった。樹皮剥ぎも、63 本中 3 本 (5%) と少ない。

稚樹はハウチワカエデやベニイタヤなど 32 本が生育し、そのうちの 6 本 (19%) に食痕が見られた。林床にはハイヌガヤ、オオカメノキなどの低木類が目立つ。ササはクマイザサで全体被度は 1% と低く、シカの食痕が見られる。可食種の現存量は 0.11、忌避種はそれを上回る 0.26 となっている。全体にエゾシカの影響は軽微である。